

## 研究委員会 2023 結果および 2024 計画・組織

組織 計 5 名 \* 順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/ 会員	所属
委員長	青木 稔	本部	会員	文化ファッション大学院大学
事務長	鶴 鉄雄	関西	会員	上田学園
委員	五月女由紀子	東日本	理事	杉野服飾大学
	平野 大	関西	会員	国際ファッション専門職大学
	岡田 絵梨奈	西日本	会員	香蘭女子短期大学

### 活動報告

目標	<p>本委員会は学会活性化の見地から、研究者ファーストをテーマに日本の専門職教育の体系化に役立てることに重点を置きながら、国内外の文献研究とファッション企業の事例研究を組み合わせ研究していく。ファッション AI 時代を生き抜くことができる教育カリキュラムの開発が急務となっている現在、本研究会では国際標準に向けて、日本のファッションビジネス教育カリキュラムを研究し学会で提案していく。</p>
2023 結果	<p>2023 年度に計画した以下の項目についてはクリアできた。</p> <p>本研究は現状分析と問題解決への方向性を合理的に研究するため、グループを 2 つに分け、各グループで必要に応じて個別研究を実施していく方法をとった。</p> <p>全体委員会に関しては、計 3 回開催 (zoom) し全体調整をおこなった。</p> <p>&lt;2023 計画項目と報告&gt;</p> <p>① 初年度と同様に研究ファーストをテーマに活動</p> <p>② 2023 年度の学会情報誌に報告書として掲載 「GAKKAI_PRESS_vol.3 に掲載済み」</p> <p>③ 2023 年 11 月の全国大会にて学会発表</p> <p>【5 クール：13：00～】</p> <p>ファッション専門職教育に関する一考察 1 (研究委員会報告)</p> <p>- 企業の採用状況から分析する修士号・博士号取得者に関するジョブ型雇用の重要性-</p> <p>発表者は、山本ひとみ、平野 大、岡田 絵梨奈</p> <p>【6 クール：13：30～】</p> <p>ファッション専門職教育に関する一考察 2 (研究委員会報告)</p> <p>- 海外の文献分析と産学官連携事例から考察する日本のジョブ型カリキュラム案-</p> <p>発表者は、鶴 鉄雄、山本ひとみ</p> <p>共同研究者は青木 稔、五月女 由紀子</p> <p>* 敬称略</p> <p>&lt;2023 年度研究の総合結果&gt;</p> <p>まず、「企業の採用状況から分析する修士号・博士号取得者に関するジョブ型雇用の重要性」の研究により、グローバルスタンダード時代における企業側の修士号・博士号取得者への雇用ニーズが高まってきていることが明らかとなった。(特に外資系の中途採用)</p> <p>この分析に基づき、「海外の文献分析と産学官連携事例から考察する日本のジョブ型カリキュラム案」の研究では、ファッション経営におけるビジネスプロセスを学術的に体系立</p>

	<p>てた「上位概念」の基準がいまだに確立されていないことも明らかとなった。したがって、本研究の最後に国際標準レベルを目指した「ジョブ型カリキュラム案」を提案した。以上の研究成果から明らかになった事は、外資系企業が求める人材を育成する教育機関が日本にほとんど存在しないということである。それゆえ、グローバル化と持続的な成長を支えるための教育機関の統合やジョブ型カリキュラムの推進が急務である。そして、国内外のファッション企業の成長に必要な人材育成を、リカレント教育含めて実行することが重要だと考えられる。そのためには、まず最初にその教育を指導する教員、つまり研究者の質向上から取り組むことが重要である。現在、日本の大学ではファッションビジネスに特化した修士、博士号の取得が困難であるため、学生や研究者は経済学、経営学の修士、博士号を取得せざるを得ない。したがって、ファッションビジネスに関する実践的な学問を修士、博士レベルで学ぶためのリカレント教育の仕組みが必要である。今後、学生や研究者がジョブ型就職環境に参加できるような体制を、産学連携を通じて構築することが求められる。そのために、FB学会がその役割を果たせるよう提案したいと考えている。</p>
2024 計画	<p>2023年度の研究で「ジョブ型カリキュラム案」が提案できたため、2024年度は関西支部の「ファッション経営学カリキュラム研究会」と連携する形で合同研究を行うこととする。</p> <p>まずは体的な研究としては「デジタル・ファッションメディア・マネジメント」「ファッションテクノロジー・マネジメント」「ファッションコーポレート・マネジメント」という3つのテーマに取り組み、「マネジメント」レベルの教育内容を構築する。さらに、研究発表した「リカレント教育の仕組み案」を実現するためのステップとして、最初にジョブ型カリキュラムに基づいた「マネジメント教育セミナー」をスタートさせ、参加者の意見を参考にしながらリカレント教育の構想を練り上げることとする。</p>

以上